

広域的な植生管理による アカスジカスミカメ防除マニュアル



斑点米の発生が問題となっています！

近年、静岡県内で斑点米の発生が問題となっています。米の検査規格では、玄米中の斑点米の混入割合が0.1%を超えると2等米、0.3%を超えると3等米、0.7%を超えると規格外となってしまいます。

斑点米(カメムシによる被害)



斑点米の原因となるカメムシ(斑点米カメムシ)は数十種類いると言われていたますが、静岡県内で発生する主要な斑点米カメムシはアカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシなど数種類です。これら斑点米カメムシの中でも、近年静岡県内で最も問題となっているのはアカスジカスミカメです。

静岡県内の主要な斑点米カメムシ



アカスジカスミカメ



ホソハリカメムシ

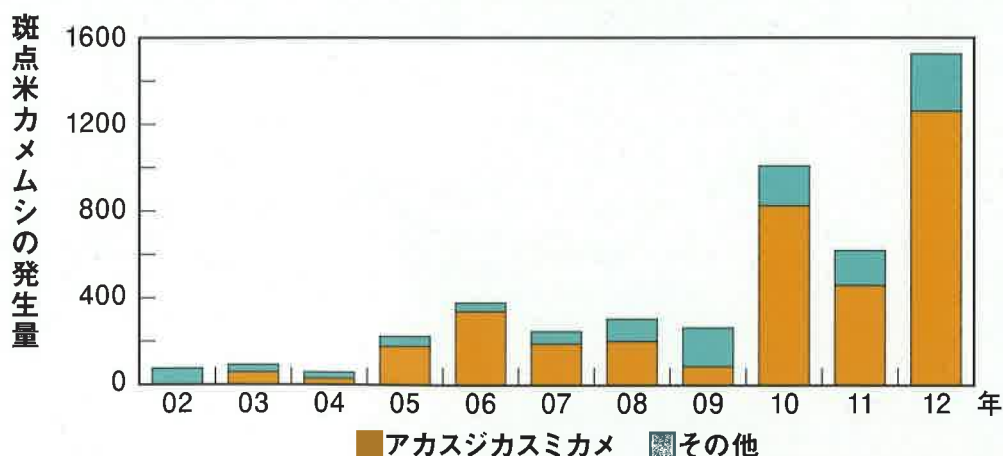


クモヘリカメムシ



トゲシラホシカメムシ

静岡県内の斑点米カメムシの発生推移(2002~2012年)



静岡県病害虫防除所による県内50ヶ所の巡回調査結果(毎年7月:雑草地のすくい取り)

静岡県内の斑点米カメムシの発生量は年々増加しています。特に、アカスジカスミカメの発生量が多くなっています！

県内で問題のアカスジカスミカメとは？

アカスジカスミカメの体長は、成虫4～5mm、幼虫1～4mmと、とても小さなカメムシです。



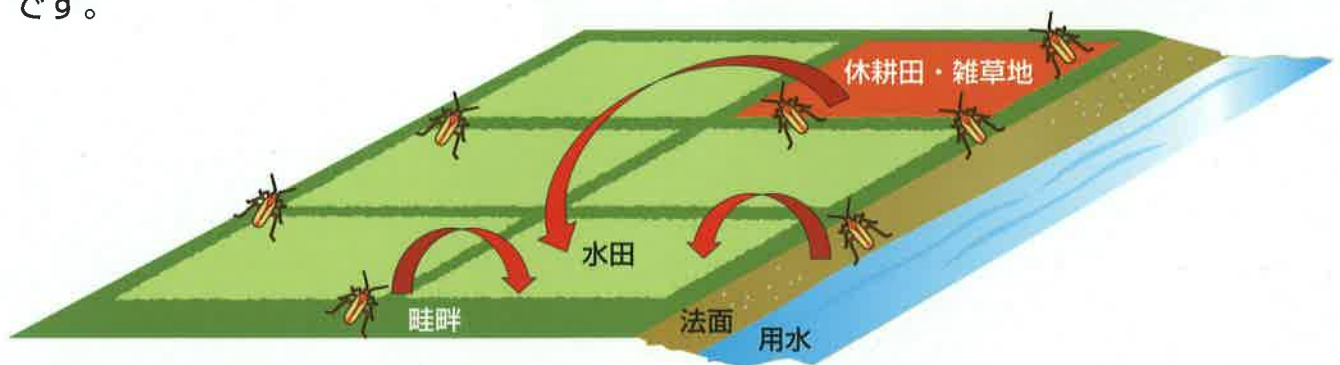
成虫
(体長 4～5mm)



幼虫
(体長 1～4mm)

アカスジカスミカメはイネ科雑草の穂を餌とし、イネ科雑草が生える畦畔や休耕田などに生息しています。

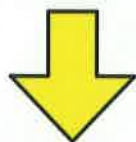
成虫は半径300mを行動範囲として生活し、水稻が出穂した後、水田内に侵入するのです。



- 水田周辺の畦畔や休耕田などから水田内に侵入する。
- 水田内で農薬散布をしても、周辺からアカスジカスミカメが侵入してしまう。



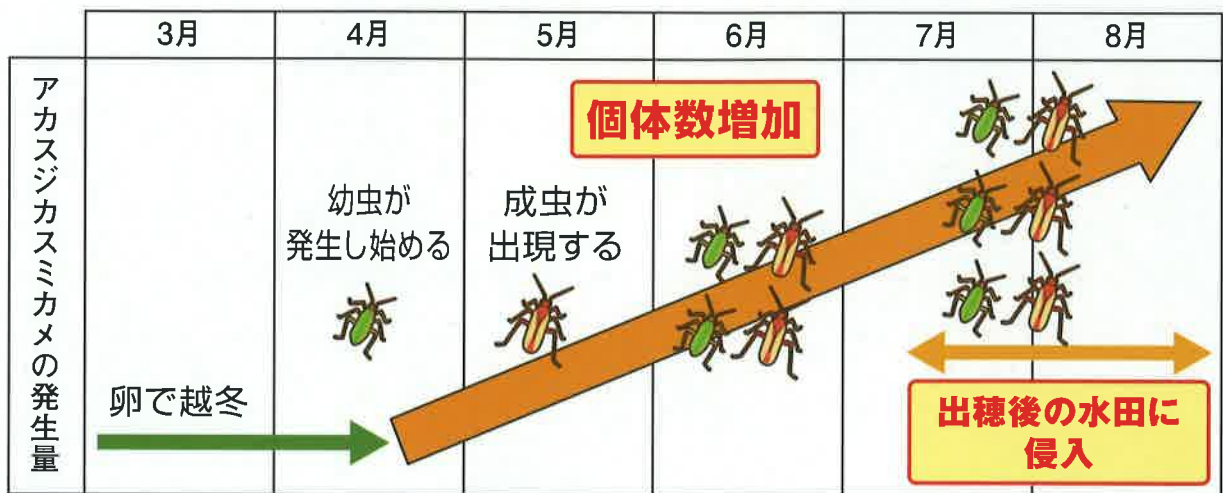
農薬のみで完全に防除することは困難！



**アカスジカスミカメを防除するためには、
水田に侵入する前の周辺環境の管理が必要です。**

アカスジカスミカメ防除のポイント1 春の水田周辺の管理

アカスジカスミカメは卵で越冬し、4月中旬頃から一部の休耕田・雑草地と水田の畦際という限られた場所で幼虫が発生し始めます。この限られた初期発生源で成虫になったアカスジカスミカメは、その後、世代を繰り返しながら急激に増加し、発生場所も地域全体に蔓延していくのです。

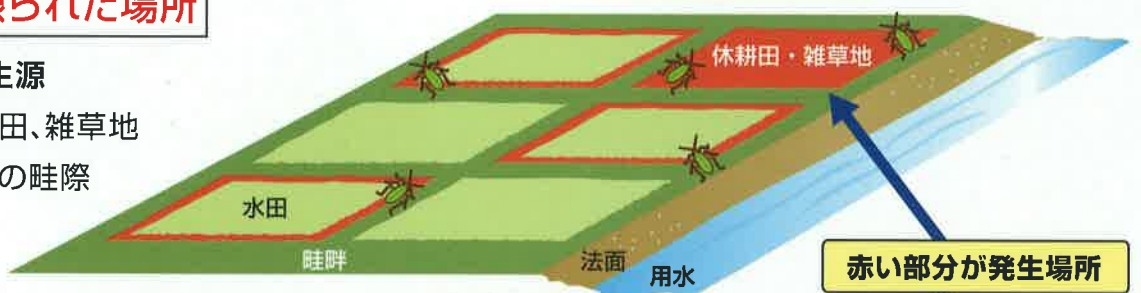


アカスジカスミカメの発生場所

春：地域の限られた場所

初期発生源

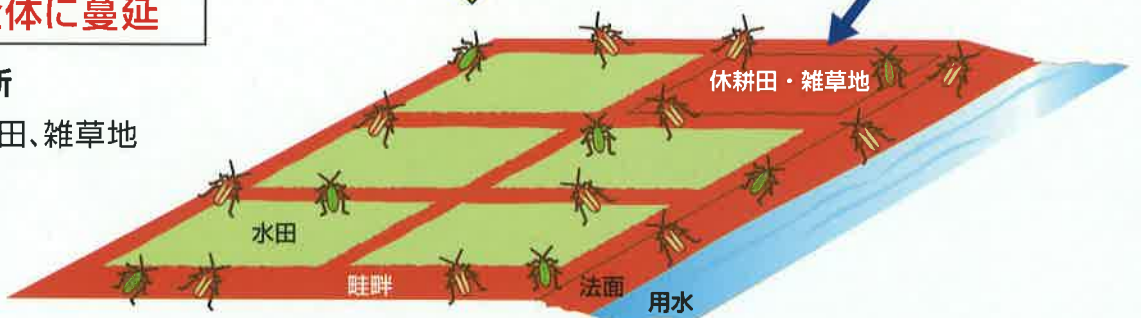
- ・休耕田、雑草地
- ・水田の畦際



夏：地域全体に蔓延

発生場所

- ・休耕田、雑草地
- ・畦畔
- ・法面



アカスジカスミカメの数が少なく発生場所が限られる「春の防除」が効果的です！

アカスジカスミカメ防除のポイント2 秋から春への繋がりを絶つ!

春の初期発生源となる場所はどのような場所なのでしょう？ それは、秋に卵を産む雑草と、春の幼虫の餌となる雑草の両方が生える場所です。この「秋から春への繋がり」を絶つことでアカスジカスミカメの発生量を抑えることができます。

発生源となる場所では、草刈りや除草剤処理によって春の幼虫の餌となるスズメノテッポウ、セトガヤ、早生型チガヤを除草しましょう。また、耕起や畦塗りは、春の餌植物を除草するだけでなく、アカスジカスミカメの越冬卵を土の中に埋める効果もあるため、その後、雑草が発生してきても、初期発生源とはなりません。

防除方法



草刈り



除草剤

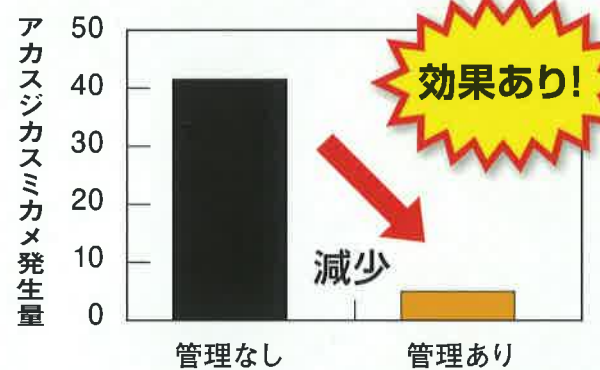


耕起



畦塗り

春までの管理 ⇒ 夏の個体数が減少!



注意!

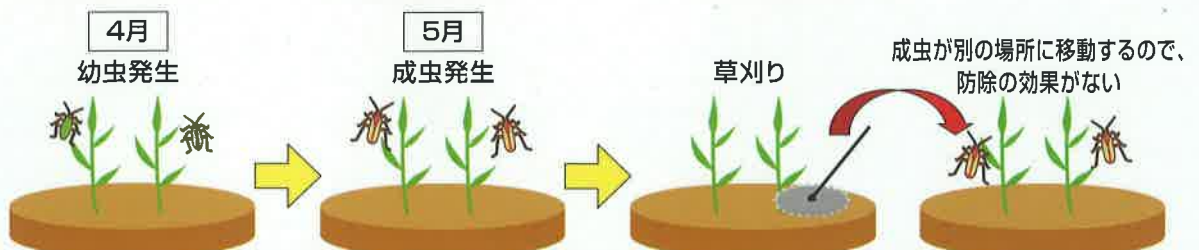
草刈りによる管理は、早すぎても遅すぎても効果はみられないので、4月に行ないましょう!

幼虫が発生し始める4月中旬から成虫が発生し始める5月上旬まで、餌植物の穂がない状態を作り出すことが大切です。

3月に草刈り
↓
時期が早い



5月に草刈り
↓
時期が遅い



春までにアカスジカスミカメの初期発生源の管理をして、
アカスジカスミカメを防除しましょう!

あなたの地域の初期発生源を探しましょう!

アカスジカスミカメの成虫は半径300mを行動範囲としているため、自分の水田のみを管理しても防除効果はありません。重要なことは、地域全体でアカスジカスミカメの防除対策を実施することです。

【問題となる場所1】春の幼虫の餌植物が生える休耕田・雑草地



管理する必要がある休耕田・雑草地は、すべての休耕田・雑草地ではありません。休耕田・雑草地に生えるスズメノテッポウ、セトガヤ、早生型チガヤを見つけて管理することによって、アカスジカスミカメの初期発生源をなくすことができます。

【問題となる場所2】春の幼虫の餌植物が残る水田の畦際(田んぼと畦の境目)



水田を耕起した後、トラクタの旋回部分やロータリーの刃があたらず耕起できなかった所に餌植物のスズメノテッポウやセトガヤが残ってしまった場合、残ったスズメノテッポウやセトガヤを管理することが必要です。

こんな場所はどうなの?

◎コムギ畑は初期発生源なの?

秋に耕起をするコムギ畑では、越冬卵を産む植物がないため越冬卵を産むことができません。このため、コムギ畑はアカスジカスミカメの初期発生源とはなりません。

◎秋から春まで耕起・除草をしない本田は初期発生源なの?

秋から春まで耕起・除草をしない本田に、春の餌植物が生えたら初期発生源となります。例えば、秋にダイズを収穫した後、春まで耕起しない場合、春の幼虫の餌植物が生えた場所は初期発生源となります。

【問題となる雑草】春の幼虫の餌植物：スズメノテッポウ、セトガヤ、早生型チガヤ

春に管理すべき雑草は、スズメノテッポウ、セトガヤ、早生型チガヤの3種類です。これら雑草が生えている休耕田・雑草地、水田の畦際の除草を徹底しましょう。

①スズメノテッポウ

②セトガヤ



スズメノテッポウとセトガヤの特徴

- ・田植前の水田や休耕田など、やや湿ったところで生育する。
- ・穂が出ている時期は、3月～6月頃。
- ・高さ20～60cmで、セトガヤのほうがやや高い。
- ・葯の色が特徴的で、スズメノテッポウはオレンジ色、セトガヤはクリーム色をしている。

③早生型チガヤ



早生型チガヤの特徴

- ・チガヤには、4月中旬～5月中旬に穂をつける早生型チガヤと、5月中旬～6月中旬に穂をつける普通型チガヤの2つのタイプがある。
- ・普通型チガヤは多く発生するが、早生型チガヤの発生量は少ない。
- ・早生型チガヤは春の幼虫の餌植物となる。
- ・よく見られる普通型チガヤは春の幼虫の餌植物にならないので、普通型チガヤを防除する必要はない。

**地域内の初期発生源をみんなで探し、
地域ぐるみでアカスジカスミカメ対策を実施しましょう！**